

授業科目名：体育原理	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：平塚 和也 担当形態：単独
科 目	教科に関する専門的事項		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	体育		
授業のテーマ及び到達目標			
1. 概論的な体育について説明することができる。 2. 体育の抱える問題について説明することができる。			
授業の概要			
体育についての基本的な用語や概念を整理することによって、概論的な体育の理解を深める。 また、体育・スポーツの本質を理解し、体育の抱える問題について学ぶ。			
授業計画			
第1回：体育原理とは何か 第2回：体育とスポーツの違い、体育理念の移り変わり 第3回：体育における人間形成 第4回：体育とフェアプレイ 第5回：スポーツや身体活動に見られる美的体験 第6回：体育と身体形成 第7回：体育で競争をどのように位置づけるか 第8回：体育やスポーツとプレイの関係 第9回：技術指導から見た体力 第10回：体育と指導者 第11回：運動部活動の意義と課題 第12回：子どもから見た体育の存在意義 第13回：特別支援学校における体育 第14回：体育・スポーツの本質 第15回：社会変化と今後の体育定期試験			
テキスト			
なし			
参考書・参考資料等			
大橋道雄編著『体育哲学原論』大修館書店 友添秀則・岡出美則編著『新版教養としての体育原理』大修館書店 中村敏雄・高橋健夫編著『体育原理講義－体育・スポーツの理解に向けて－』不昧堂出版			
学生に対する評価			
毎時のレポート、受講態度、試験（テスト）などの結果から総合的に判断する。			

授業科目名：運動学（ 運動方法学を含む）	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：工藤 祐太郎、 有光 琢磨、泉水 朝宏、平 塚 和也
			担当形態：オムニバス
科 目	教科に関する専門的事項		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	体育		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 身体運動を構成する要素を力学的、生理学的な観点から抽出し、整理することができる。 2. スポーツの指導や体育授業で直面する指導上の問題を解決するために必要な専門知識・技能を習得する。 			
<p>授業の概要</p> <p>学校体育授業やスポーツ指導を行うためには、ヒトの動作の仕組みに関する理論に基づいた助言を行ったり、運動学習のプログラムを作成したりする能力が必要となる。本講義では、各種の身体運動を解剖学、生理学、力学的な側面から理解するとともに、運動技術の指導、教育方法について検討・学習する。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：運動学とは何か（平塚） 第2回：身体運動の構成要素（平塚） 第3回：解剖学・生理学からみた身体運動（平塚） 第4回：身体運動の効率と選択（平塚） 第5回：体力の測定① 握力、上体起こし、長座体前屈（工藤） 第6回：体力の測定② 反復横とび、立ち幅跳び、20mシャトルラン（工藤） 第7回：体力の評価（工藤） 第8回：運動指導構造論（工藤） 第9回：身体運動の歴史的視点（有光） 第10回：身体運動と現代社会（有光） 第11回：運動観察論（有光） 第12回：身体運動の教育（有光） 第13回：身体運動とスキル（泉水） 第14回：身体運動と運動力学（泉水） 第15回：運動指導のための情報収集と活用（泉水）</p>			
<p>テキスト</p> <p>なし</p>			
<p>参考書・参考資料等</p> <p>大橋道雄編著『体育哲学原論』大修館書店</p>			

友添秀則・岡出美則編著『新版教養としての体育原理』大修館書店

中村敏雄・高橋健夫編著『体育原理講義－体育・スポーツの理解に向けて－』不昧堂出版

学生に対する評価

講義への参加態度（発問への答えなど）、各担当教員の課すレポート課題、小テストの成績から総合的に評価する。

授業科目名：基本実技	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1 単位	担当教員名：有光琢磨 担当形態：単独
科 目	教科に関する専門的事項		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	体育		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>以下の事項を到達目標とする。</p> <p>①体力の概念を理解し、基礎体力の養成・向上および目的に応じた様々な動きの獲得に関する原理原則について説明することができる。</p> <p>②基礎体力の養成のための指導計画を立案し、実践することができる。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>本講義では、小学校学習指導要領、中学校学習指導要領および高等学校学習指導要領「保健体育」の体育分野である「体づくり運動」の内容を中心として、基礎体力養成のための合理的で効果的な運動の行い方を理解し、さまざまな運動課題に取り組みながら、運動の指導方法について学ぶ。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：体づくり運動の概念について</p> <p>第2回：体の柔らかさを高める運動について</p> <p>第3回：体の柔らかさを高める運動の実践</p> <p>第4回：巧みな動きを高めるための運動について</p> <p>第5回：巧みな動きを高めるための運動の実践</p> <p>第6回：力強い動きを高めるための運動について</p> <p>第7回：力強い動きを高めるための運動の実践</p> <p>第8回：動きを持続する能力を高めるための運動について</p> <p>第9回：動きを持続する能力を高めるための運動の実践</p> <p>第10回：体ほぐしの運動について</p> <p>第11回：体ほぐしの運動の実践</p> <p>第12回：ねらいが同じ運動の組み合わせについて</p> <p>第13回：ねらいが同じ運動の組み合わせの実践</p> <p>第14回：ねらいが異なる運動の組み合わせについて</p> <p>第15回：ねらいが異なる運動の組み合わせの実践</p>			
<p>テキスト</p> <p>なし</p>			
<p>参考書・参考資料等</p> <p>文部科学省（著）『体づくり運動 授業の考え方と進め方（改訂版）』 東洋館出版社</p>			
<p>学生に対する評価</p> <p>受講態度、レポートなどの結果により総合的に判断する。</p>			

授業科目名：陸上競技	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1 単位	担当教員名：泉水 朝宏 担当形態：単独
科 目	教科に関する専門的事項		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	体育		
授業のテーマ及び到達目標			
<p>1.陸上競技における走・跳・投種目の基本技術を理解したうえで実践できる。</p> <p>2.陸上競技における走・跳・投種目の指導法についての知識を身につけ、指導できる。</p> <p>3.陸上競技のルールやマナーを説明できる。</p>			
授業の概要			
<p>本講義では陸上競技における走・跳・投種目についての基本的な技術を実技講習を通して学ぶとともに、各種目の指導方法、器具の取り扱い方、陸上競技のルールやマナーに関しても学ぶ。</p>			
授業計画			
<p>第1回：陸上競技について①（歴史、構成、基本的ルール）</p> <p>第2回：短距離走①（走り方、短距離走の記録計測）</p> <p>第3回：短距離走②（走り方、短距離走の種類、トレーニング方法）</p> <p>第4回：リレー①（バトンパスの方法、リレーの練習方法）</p> <p>第5回：リレー②（リレーの記録計測、審判方法）</p> <p>第6回：障害走①（ハードル走の練習方法、スタートから1台目の走り方）</p> <p>第7回：障害走②（複数台のハードル走、100mハードル実技テスト）</p> <p>第8回：走幅跳①（立ち幅跳び、短・中助走からの跳躍、空中動作の種類）</p> <p>第9回：走幅跳②（適切な助走距離の設定、空中動作の選択、走幅跳の計測、審判の方法）</p> <p>第10回：走高跳①（走高跳の構成、踏み切り動作、短・中助走の練習）</p> <p>第11回：走高跳②（空中動作の選択、走高跳の計測、審判の方法）</p> <p>第12回：砲丸投（砲丸の取り扱い方法、投げ方の種類、立ち投げの方法）</p> <p>第13回：砲丸投②（投げ方の選択、砲丸投の計測、審判の方法）</p> <p>第14回：長距離走①（基本的知識の理解、ペースを維持して走る、心拍数の理解）</p> <p>第15回：長距離走②（数種類のペースを維持して走る、1000m計測）</p>			
テキスト			
なし			
参考書・参考資料等			
<p>『陸上競技指導教本アンダー16・19 基礎から身につく陸上競技 初級編』日本陸上競技連盟</p> <p>『中学校部活動における陸上競技指導の手引き』日本陸上競技連盟</p>			
学生に対する評価			

講義中の発言等、授業内に行う小テストの成績、授業ごとのレポートの完成度から総合的に評価する。

平常評価（授業への参加度：20%）

達成評価（実技の完成度：40%）

期末評価（レポート、運動の理解度：40%）

授業科目名：生涯スポーツ論	教員の免許状取得のための必修科目	単位数：2単位	担当教員名：三本木 温 担当形態：単独
科目	教科に関する専門的事項		
施行規則に定める科目区分又は事項等	体育		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 生涯スポーツの理念や役割を説明することができる 日本の生涯スポーツ政策を説明することができる。 生涯スポーツに関する基本的な知識を身につけ、生涯にわたった健康づくり運動を働きかけることができる。 			
<p>授業の概要</p> <p>少子高齢化社会が急速に進む中、国民の運動・スポーツによる健康づくりの必要性が高まっている。生涯を通じたスポーツ活動の実践に向けて、文部科学省が「スポーツ振興基本計画」、厚生労働省が「健康日本21」を掲げ、現在も日本各地で健康づくり環境の整備が進んでいる。本講義では生涯スポーツの定義、各国の生涯スポーツ政策、ライフスタイルに応じたスポーツの実践方法、生涯を通してスポーツを実践するための基本的知識を学ぶ。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：生涯スポーツとは 第2回：日本の生涯スポーツ政策 第3回：世界の生涯スポーツ政策 第4回：生涯スポーツとビジネス 第5回：生涯スポーツとヘルスプロモーション 第6回：地域社会と生涯スポーツイベント 第7回：生涯スポーツ指導者とボランティア 第8回：高齢者のスポーツ 第9回：障がい者のスポーツ 第10回：生涯スポーツとニュースポーツ 第11回：スポーツクラブの現状と課題 第12回：スポーツクラブの運営 第13回：生涯スポーツのプロモーション 第14回：スポーツNPO法人の設立と運営 第15回：グループディスカッション「生涯スポーツに取り組むためには」</p>			
<p>テキスト</p> <p>なし</p>			
<p>参考書・参考資料等</p> <p>『生涯スポーツ実践論 改訂3版』川西正志・野川春夫 編著 市村出版</p>			
<p>学生に対する評価</p> <p>講義中の発言等、授業内に行う小テストの成績、授業ごとのレポートの完成度から総合的に評</p>			

価する。

平常評価（発表や小レポート：20%）

中間評価（中間テスト・レポート：40%）

期末評価（期末レポート：40%）

授業科目名：衛生学・ 公衆衛生学1	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：千葉 啓子 担当形態：単独
科 目	教科に関する専門的事項		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	体育		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・健康の概念やそれに関わる保健の概念を説明できる。 ・世界の健康問題について理解できる。 ・我が国の健康状況の実態について理解できる。 ・感染症の成立とその対策を理解できる。 ・社会保障の枠組みを理解できる。 ・ライフステージごとの保健活動について理解できる。 			
<p>授業の概要</p> <p>公衆衛生学は健康の保持・増進を組織化された共同社会の中で社会努力によって、疾病の予防、寿命の延長そして身体的・精神的健康と能率の増進を目指す学問である。ここでは健康に関係する様々な要因を認識し、それらが起因する健康影響について、人間のライフステージごとに整理する。さらにそれらの健康障害を予防するための様々な保健活動について学習し、積極的な健康獲得の重要性を理解することを目的とする。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：公衆衛生学概論</p> <p>第2回：わが国・世界の健康問題（SDGsを踏まえて）</p> <p>第3回：人口静態統計（少子高齢社会の現状）</p> <p>第4回：人口動態統計（出生・死亡の動向・健康寿命）</p> <p>第5回：健康状態の把握方法（測定・評価の仕方）</p> <p>第6回：保健統計からみた日本人の健康状態と受療状況</p> <p>第7回：疾病予防対策と健康管理</p> <p>第8回：感染症の動向と対策</p> <p>第9回：生活習慣病の現状と対策</p> <p>第10回：地域保健活動（市町村保健センターと保健所の役割）</p> <p>第11回：社会保障のしくみ</p> <p>第12回：母子保健活動</p> <p>第13回：学校保健活動</p> <p>第14回：成人・高齢者保健活動</p> <p>第15回：産業保健活動</p>			
テキスト			

「新版 衛生・公衆衛生学 2024」監修 山本玲子（アイ・ケイコーポレーション）

参考書・参考資料等

「厚生指標・増刊－国民衛生の動向 2023/2024」厚生統計協会（財）

「厚生指標・増刊－国民の福祉と介護の動向 2023/2024」厚生統計協会（財）

「厚生指標・増刊－保険と年金の動向 2023/2024」厚生統計協会（財）

「令和5年版 厚生労働白書」厚生労働省 編

「栄養科学シリーズNEXT 公衆衛生学」村松幸・中山健夫編（講談社サイエンティフィク）

学生に対する評価

定期試験や授業時に行う小テストにより総合的に評価する。

授業科目名：小児保健	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：宮澤 君子 担当形態：単独
科 目	教科に関する専門的事項		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	体育		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>1. 子どもの健康の保持増進について、発育発達・運動・栄養・睡眠、疾病と障害、事故と安全、環境や施策など総合的に理解し説明できる。</p> <p>2. 将来、医療・保健・福祉および教育の現場で働くことを希望する学生は、職場で役立つよう実践的な知識を身につける。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>小児保健は、子どもの健康を守り、健康を増進させることを科学する学問である。子どもたちの心身が健全に発育するためには、単に身体的発育や精神運動発達だけにとどまらず、栄養、運動、睡眠といった健康づくりのほか、生活環境や母子関係、事故と安全教育、保健行政や施策といったことも大きく関係する。また、小児期に多い疾病や発達の障害を正しく理解することは、疾病の予防や障害の早期発見、療育を考える上でも大切なことである。本講義では、これら小児の健康について概説し、子育て支援や児童虐待など今日的な問題も取り上げながら、総合的理解を目指す。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：子どもの健康と保健の意義</p> <p>第2回：子どもと家族の諸統計 子どもの発育・発達と保健</p> <p>第3回：子どもの身体発育と評価の仕方</p> <p>第4回：生理機能の発達と保健</p> <p>第5回：運動機能・精神機能の発達と保健</p> <p>第6回：子どもの生活環境</p> <p>第7回：地域における保健活動と子どもの虐待防止</p> <p>第8回：子どもの健康状態の観察</p> <p>第9回：子どもの感染症、感染症の予防</p> <p>第10回：子どもの救急疾患</p> <p>第11回：新生児の病気、新生児期にわかる先天性の病気</p> <p>第12回：子どものアレルギー疾患</p> <p>第13回：子どもの慢性疾患</p> <p>第14回：保護者との情報共有と家族の支援</p> <p>第15回：子どもの健康診断と関連機関との連携</p>			
テキスト			

小林美由紀 編著 「授業で現場で役に立つ！ 子どもの保健テキスト 改訂第2版」 診断と治療社

参考書・参考資料等

小林美由紀 編著 「授業で現場で役に立つ 子どもの健康と安全 演習ノート」 改訂第2版 診断と治療社

榊原洋一 監修 『これならわかる！子どもの保健演習ノート 改訂第3版追補』 診断と治療社

学生に対する評価

定期試験を重視し、リアクションペーパーや授業態度なども参考にしながら総合的に評価をする。

授業科目名：精神保健	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：阿部 俊彦 担当形態：単独
科 目	教科に関する専門的事項		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	体育		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>1. 心の健康の保持増進について、多角的に理解を深めるとともに、将来の職業もしくは自らの生活に応用することができる。</p> <p>2. 精神障害を正しく理解し、治療や予防、生活支援について説明ができる。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>精神的な健康を保持増進するためには、精神の健康と不健康についての概念や、ライフサイクルおよび家庭・学校・職場・地域における精神保健の知識は不可欠である。また、統合失調症その他精神障害、発達障害、心身症といった疾病や障害についても正しく理解をする必要がある。</p> <p>将来、養護教諭や医療・保健・福祉従事者になった場合に、個人や集団、もしくは疾病や障害のある人々への予防活動や援助活動を行うために必要な基礎的知識を獲得することを目的とする。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：オリエンテーション、精神保健の基礎</p> <p>第2回：精神保健の歴史</p> <p>第3回：原因と症状と診断・治療・支援</p> <p>第4回：心身症、神経症・ストレス関連障害</p> <p>第5回：気分症群</p> <p>第6回：統合失調症</p> <p>第7回：脳の急性・慢性障害</p> <p>第8回：睡眠・摂食・性関連障害</p> <p>第9回：物質使用症と嗜癖行動症</p> <p>第10回：児童・青年期精神医学</p> <p>第11回：特別支援教育における合理的配慮、インクルーシブ教育</p> <p>第12回：性格のかたより</p> <p>第13回：精神保健福祉法と司法精神医学</p> <p>第14回：地域精神医療、リエゾン精神医学</p> <p>第15回：まとめ—精神保健の展望</p>			
テキスト			

日本評論社『精神医学ハンドブック [第8版] 医学・保健・福祉の基礎知識』

参考書・参考資料等

中央法規出版『こころの医学入門—医療・保健・福祉・心理専門職をめざす人のために』

学生に対する評価

筆記試験を重視する。このほか、受講態度やミニッツペーパー等より総合的に判断する。

授業科目名：国語科教育法	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 1単位	担当教員名：花生 典幸 担当形態：単独
科目	教科及び教科の指導法に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	各教科の指導法(情報通信技術の活用を含む。)		
授業のテーマ及び到達目標			
<ul style="list-style-type: none"> ・学習指導要領に基づいた国語科教育の在り方について説明できる。 ・教材の内容や指導方法について理解し、学習指導案を作成できる。 			
授業の概要			
小学校における国語科教育の基本的な理論について考察し、学習指導法、及び国語科授業の実践的な演習を行う。			
授業計画			
第1回：小学校における国語科教育の目的、学習指導要領の変遷と国語科教育の動向			
第2回：国語科の授業づくり			
第3回：「話すこと・聞くこと・書くこと」の学習指導			
第4回：「読むこと」（説明的な文章・文学的な文章・本などから情報を得て活用する活動）の学習指導			
第5回：教材研究および情報機器機の活用			
第6回：学習指導と評価			
第7回：学習指導案（項目と内容、書き方）の理解・作成			
第8回：模擬授業および振り返り（相互評価と自己評価レポートの作成）			
定期試験			
テキスト			
・文部科学省『小学校学習指導要領解説 国語編』			
参考書・参考資料等			
なし			
学生に対する評価			
講義・課題等への姿勢及び試験の成績を総合的に評価する。			

授業科目名：社会科教育法	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 1単位	担当教員名：小瑠 史朗 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	各教科の指導法(情報通信技術の活用を含む。)		
授業のテーマ及び到達目標			
<ul style="list-style-type: none"> ・学習指導要領に基づいた社会科教育の在り方について説明できる。 ・教材の内容や指導方法について理解し、学習指導案を作成できる。 			
授業の概要			
小学校における社会科教育の基本的な理論について考察し、学習指導法、及び社会科授業の実践的な演習を行う。			
授業計画			
第1回：小学校における社会科教育の目的、小学校社会科教育と学習指導要領の変遷と動向			
第2回：小学校社会科のカリキュラム構造、小学校社会科の授業づくり			
第3回：小学校社会科の学習内容（第3・4学年）			
第4回：小学校社会科の学習内容（第5・6学年）			
第5回：教材研究と情報機器の活用			
第6回：学習指導と評価			
第7回：社会科授業と学習指導計画案（項目、内容、書き方）			
第8回：模擬授業および振り返り（相互評価と自己評価レポートの作成）			
定期試験			
テキスト			
・文部科学省『小学校学習指導要領解説 社会編』			
参考書・参考資料等			
なし			
学生に対する評価			
講義・課題等への姿勢及び試験の成績を総合的に評価する。			

授業科目名：算数科教育法	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 1単位	担当教員名：田中 義久 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	各教科の指導法(情報通信技術の活用を含む。)		
授業のテーマ及び到達目標			
<ul style="list-style-type: none"> ・学習指導要領に基づいた算数科教育の在り方について説明できる。 ・教材の内容や指導方法について理解し、学習指導案を作成できる。 			
授業の概要			
小学校における算数科教育の基本的な理論について考察し、学習指導法、及び算数科授業の実践的な演習を行う。			
授業計画			
第1回：小学校における算数科教育の目的、小学校算数科教育と学習指導要領の変遷と動向			
第2回：小学校算数科の授業づくり			
第3回：小学校算数科の学習内容（A：数と計算 B：図形）			
第4回：小学校算数科の学習内容（C：測定、変化と関係 D：データの活用）			
第5回：教材研究と情報機器の活用			
第6回：学習指導と評価			
第7回：算数科授業と学習指導案（項目、内容、書き方）			
第8回：模擬授業および学習のまとめ（相互評価と自己評価レポートの作成）			
定期試験			
テキスト			
・文部科学省『小学校学習指導要領解説 算数編』			
参考書・参考資料等			
なし			
学生に対する評価			
講義・課題等への姿勢及び試験の成績を総合的に評価する。			

授業科目名：理科教育 法	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 1単位	担当教員名：佐藤 崇之 担当形態：単独
科目	教科及び教科の指導法に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	各教科の指導法(情報通信技術の活用を含む。)		
授業のテーマ及び到達目標 ・学習指導要領に基づいた理科教育の在り方について説明できる。 ・教材の内容や指導方法について理解し、学習指導案を作成できる。			
授業の概要 小学校における理科教育の基本的な理論について考察し、学習指導法、及び理科授業の実践的な演習を行う。			
授業計画 第1回：小学校における理科教育の目的、小学校理科教育と学習指導要領の変遷と動向 第2回：小学校理科の学習内容（エネルギー、粒子） 第3回：小学校理科の学習内容（生命、地球） 第4回：小学校理科教育と安全 第5回：教材研究と情報機器の活用 第6回：学習指導と評価 第7回：理科授業と学習指導案（項目、内容、書き方） 第8回：模擬授業および学習のまとめ（相互評価と自己評価レポートの作成） 定期試験			
テキスト ・文部科学省『小学校学習指導要領解説 理科編』			
参考書・参考資料等 なし			
学生に対する評価 講義・課題等への姿勢及び試験の成績を総合的に評価する。			

授業科目名：生活科教育法	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 1 単位	担当教員名：田代 高章 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	各教科の指導法(情報通信技術の活用を含む。)		
授業のテーマ及び到達目標			
<ul style="list-style-type: none"> ・学習指導要領に基づいた生活科教育の在り方について説明できる。 ・教材の内容や指導方法について理解し、学習指導案を作成できる。 			
授業の概要			
小学校における生活科教育の基本的な理論について考察し、学習指導法、及び生活科授業の実践的な演習を行う。			
授業計画			
第1回：小学校における生活科教育の創設経緯および目的、生活科の理念と特徴			
第2回：生活科の学習内容（自分と人や社会との関わり、自分と自然との関わり）			
第3回：生活科の学習内容（自分自身）			
第4回：各教科等との関連と情報機器の活用法			
第5回：学校や地域の特色に応じた生活科指導			
第6回：学習指導と評価			
第7回：生活科授業と学習指導案（項目、内容、書き方）、教材研究			
第8回：模擬授業および学習のまとめ（相互評価と自己評価レポートの作成）			
定期試験			
テキスト			
・文部科学省『小学校学習指導要領解説 生活科編』			
参考書・参考資料等			
なし			
学生に対する評価			
講義・課題等への姿勢及び試験の成績を総合的に評価する。			

授業科目名：音楽科教育法	教員の免許状取得のための必修科目	単位数： 1単位	担当教員名：中嶋 栄子 担当形態：単独
科目	教科及び教科の指導法に関する科目		
施行規則に定める科目区分又は事項等	各教科の指導法(情報通信技術の活用を含む。)		
授業のテーマ及び到達目標			
<ul style="list-style-type: none"> ・学習指導要領に基づいた音楽科教育の在り方について説明できる。 ・教材の内容や指導方法について理解し、学習指導案を作成できる。 			
授業の概要			
小学校における音楽科教育の基本的な理論について考察し、学習指導法、及び音楽科授業の実践的な演習を行う。			
授業計画			
第1回：小学校における音楽科教育の目的と歴史、小学校音楽科教育と学習指導要領			
第2回：音楽科の学習内容（歌唱、器楽）			
第3回：音楽科の学習内容（音楽づくり、鑑賞）			
第4回：音楽科における情報機器及び教材の活用について（電子教材を含む）			
第5回：音楽指導と評価			
第6回：教材研究			
第7回：音楽科の授業づくり、学習指導案（項目、内容、書き方）			
第8回：模擬授業および学習のまとめ（相互評価と自己評価レポートの作成）			
定期試験			
テキスト			
・文部科学省『小学校学習指導要領解説 音楽編』			
参考書・参考資料等			
なし			
学生に対する評価			
講義・課題等への姿勢及び試験の成績を総合的に評価する。			

授業科目名：図画工作 科教育法	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1単位	担当教員名：池田 拓馬、安 田 眞理子 担当形態：オムニバス
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	各教科の指導法(情報通信技術の活用を含む。)		
授業のテーマ及び到達目標 ・ 学習指導要領に基づいた図画工作科教育の在り方について説明できる。 ・ 教材の内容や指導方法について理解し、学習指導案を作成できる。			
授業の概要 小学校における図画工作科教育の基本的な理論について考察し、学習指導法、及び図画工作科授業の実践的な演習を行う。			
授業計画 第1回：小学校における図画工作科教育の目的、小学校図画工作科教育と学習指導要領 (安田) 第2回：図画工作科の内容：内容の構成、学年ごとの変化 (安田) 第3回：造る活動を通した図画工作科理解 身近な素材を用いた造形遊び・造形表現 (安田) 第4回：観る活動を通した図画工作科理解① 美術作品を用いた表現及び鑑賞 (安田) 第5回：観る活動を通した図画工作科理解② 情報機器を用いた表現及び鑑賞 (池田) 第6回：描く活動を通した図画工作科理解 形による造形表現、色による造形表現 (池田) 第7回：図工教材研究、学習指導案の作成、評価 (池田) 第9回：模擬授業および学習のまとめ(相互評価と自己評価レポートの作成) (池田) 定期試験			
テキスト ・ 文部科学省『小学校学習指導要領解説 図画工作編』			
参考書・参考資料等 なし			
学生に対する評価 講義・課題等への姿勢及び試験の成績を総合的に評価する。			

授業科目名：家庭科教育法	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 1単位	担当教員名：加賀 恵子 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	各教科の指導法(情報通信技術の活用を含む。)		
授業のテーマ及び到達目標 ・学習指導要領に基づいた家庭科教育の在り方について説明できる。 ・教材の内容や指導方法について理解し、学習指導案を作成できる。			
授業の概要 小学校における家庭科教育の基本的な理論について考察し、学習指導法、及び家庭科授業の実践的な演習を行う。			
授業計画 第1回：小学校における家庭科教育の目的と歴史、小学校家庭科教育と学習指導要領 第2回：家庭科の学習内容（家族・家庭生活） 第3回：家庭科の学習内容（食生活、衣生活、住生活） 第4回：家庭科の学習内容（消費生活・環境） 第5回：実習を用いた授業・指導上の留意点 第6回：家庭科授業と情報機器の活用 第7回：家庭科授業の教材研究、学習指導案の作成、評価 第8回：模擬授業および学習のまとめ（相互評価と自己評価レポートの作成） 定期試験			
テキスト ・文部科学省『小学校学習指導要領解説 家庭編』			
参考書・参考資料等 なし			
学生に対する評価 講義・課題等への姿勢及び試験の成績を総合的に評価する。			

授業科目名：初等保健 体育科教育法	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1単位	担当教員名：平塚 和也、渡 邊 陵由 担当形態：オムニバス
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	各教科の指導法(情報通信技術の活用を含む。)		
授業のテーマ及び到達目標 ・初等教育における「体育」の必要性、教科としての位置づけやその意味を説明することができる。 ・学習指導要領の「体育」の目標、内容、評価について理解し、学習指導案を作成することができる。			
授業の概要 学習指導要領に示された体育の目標、内容、評価に基づいた指導方略について学ぶ。また、児童の発育・発達特性と運動特性との関連を理解し、学習指導案を作成する力を身につける。			
授業計画 第1回：初等教育における体育授業の意義、児童の身体的発達と特徴（平塚） 第2回：学習指導要領における体育の目標・内容（平塚） 第3回：学習指導要領の学習内容の理解と指導方略（体づくり運動系、器械運動、陸上運動系）（渡邊） 第4回：学習指導要領の学習内容の理解と指導方略（水泳運動系、ボール運動系、表現運動系、保健）（渡邊） 第5回：学習指導要領における体育の評価・評定（渡邊） 第6回：体育授業と情報機器の活用（渡邊） 第7回：学習指導案の作成（平塚） 第8回：模擬授業および振り返り（相互評価と自己評価レポートの作成）（平塚）			
テキスト 小学校学習指導要領解説体育編（文部科学省）			
参考書・参考資料等 なし			
学生に対する評価 授業への取り組み20%、 授業後の小レポート（理解度の確認）60%、 最終レポート（学習指導案）20% 上記を合算して成績評価を行う。			

授業科目名：英語科教育法	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 1単位	担当教員名：グレゴリーアン ソニー 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	各教科の指導法(情報通信技術の活用を含む。)		
授業のテーマ及び到達目標			
<ul style="list-style-type: none"> ・ 小学校における外国語活動（中学年）・外国語（高学年）の学習、指導、評価に関する基本的事項を、学習指導要領に基づき説明できる。 ・ 教材の内容や指導方法について理解し、学習指導案を作成できる。 			
授業の概要			
小学校における英語科教育の基本的な理論について考察し、学習指導法、及び英語科授業の実践的な演習を行う。			
授業計画			
第1回：小学校における外国語活動・外国語科の目的、児童期の第二言語習得の特徴			
第2回：小・中・高等学校の外国語教育における小学校の役割と学習指導要領			
第3回：英語教育の実践（聞く活動の演習、話す活動の演習）			
第4回：英語教育の実践（読む・書く活動の演習、教材研究とその活用）			
第5回：英語教育の実践（情報機器の活用）			
第6回：外国語指導助手（ALT）等とのティーム・ティーチングによる指導			
第7回：英語科授業の教材研究、学習指導案の作成、評価			
第8回：模擬授業および振り返り（相互評価と自己評価レポートの作成）			
定期試験			
テキスト			
・ 文部科学省『小学校学習指導要領解説 外国語活動・外国語編』			
参考書・参考資料等			
なし			
学生に対する評価			
講義・課題等への姿勢及び試験の成績を総合的に評価する。			

授業科目名：教育原理	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：鈴木 康弘
			担当形態：単独
科 目	教育の基礎的理解に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想		
授業のテーマ及び到達目標			
<p>1. 西洋と日本の教育の思想と歴史を中心とする教職教養の基礎的知識を理解し、身につけることができる。</p> <p>2. 現代の教育課題について、家族と学校のあり方がどのように変化してきたかを踏まえて、多角的な視点から理解することができる。</p>			
授業の概要			
<p>この授業では、教育を考えるための基本的な知識を学ぶために、教育の思想と歴史に関するトピック・テーマについての講義を行う。授業の前半では、西洋と日本の教育の思想と歴史に関する通史を扱い、後半では、教育の思想と歴史が、現在の学校や家庭のあり方、教育問題に対して、どのような影響を与えているのかについて、受講者とのディスカッションを通して、多角的な捉え方から理解を深めていきたい。</p>			
授業計画			
第1回：教育をどのように捉えるか			
第2回：子ども・家庭・社会			
第3回：公教育の組織化			
第4回：西洋教育思想の源流			
第5回：宗教と教育			
第6回：近代教育の思想			
第7回：新教育の思想			
第8回：近代学校の誕生と展開			
第9回：日本における近代以前の人間形成			
第10回：日本型の学校の形成			
第11回：戦後の学校 その展開と課題			
第12回：西洋における教育の実践			
第13回：日本における教育の実践			
第14回：資質・能力と学力			
第15回：情報化社会の公教育			
定期試験			

テキスト

木村元・汐見稔幸編『教育原理（アクティベート教育学）』（ミネルヴァ書房、2020年）

参考書・参考資料等

なし

学生に対する評価

成績評価は、定期試験の結果を8割、小テストや授業課題、受講態度（毎回の授業後のリアクションペーパーの提出状況を含む）を2割として行います。

授業科目名：教職概論	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：根城 隆幸、一 戸 利則
			担当形態：オムニバス
科 目	教育の基礎的理解に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教職の意義及び教員の役割・職務内容（チーム学校運営への対応 を含む。）		
授業のテーマ及び到達目標 教職の意義及び役割について理解し、自分なりの教職の理想像を説明できる。			
授業の概要 「国家の存亡は教育にあり」とか「教育は教師しだい」という。今日ほどこの言葉を痛切に 感じるときはない。その教育とは何か。その教育を担う教師の役割とは何か。教師のあるべき 姿等について、教職の意義等を理解するとともに、公立高等学校での教師経験を生かして考察 していく。大学での教職課程を履修するに際し、教職を目指す学生がこれからの教師の在り方 について学ぶ。			
授業計画 第1回：教職の意義と役割（根城） 第2回：教職観と理想の教師像（根城） 第3回：教師とは、教職とは（根城） 第4回：教職への視線（根城） 第5回：教職を取り巻く諸問題（一戸） 第6回：教員の任用と身分保障（根城） 第7回：教師の役割と服務（根城） 第8回：管理職と主任の役割（根城） 第9回：教師の資質向上と研修（一戸） 第10回：教員に求められるもの、教員としての適格性（一戸） 第11回：教職への進路選択と教員採用選考 / 他の職業との比較（一戸） 第12回：教師の職場環境 / 実体験、類似体験（一戸） 第13回：教育実習の意義と心得（一戸） 第14回：教職への学び(チーム学校への対応を含む)（根城） 第15回：学び続ける教師(チーム学校への対応を含む)（根城）			
定期試験			
テキスト 『教職概論』第6次改訂版 学陽書房			
参考書・参考資料等 なし			
学生に対する評価			

授業態度、課題提出、課題発表、定期試験等により総合的に評価する。

授業科目名：教育行政	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：一戸 利則、中 村 恵佑
			担当形態：オムニバス
科 目	教育の基礎的理解に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教育に関する社会的、制度的又は経営的事項（学校と地域との連 携及び学校安全への対応を含む。）		
授業のテーマ及び到達目標			
<p>1. 中央と地方の教育行政について説明できる。</p> <p>2. 教育に行政がどのように関わっているかについて説明できる。</p> <p>3. 様々な教育課題について、行政の視点も加味しながら意見を持つことができる。</p>			
授業の概要			
<p>教育行政は、将来、教職をめざす学生に、教育学の基礎的教養を提供するとともに、「教育に関する社会的、制度的又は経営的な事項に関する科目」内容を詳細に指導する科目である。したがって、既習の教職科目を基礎に、近代公教育制度の歴史と構造、日本国憲法や教育基本法の関連を学習し、民主化行政の仕組み、学校・学級の経営、教育課程、社会変動と教育、教師の特質と資質、社会教育と生涯学習等々で分野は広範にわたる。</p> <p>講義では、教員の行政経験を踏まえつつ時事的な教育情報も活用しながら学修する。</p>			
授業計画			
第1回：日本と諸外国の教育行政及び教育制度の意味と教育法規（中村）			
第2回：教育行政の組織（文科省・教育委員会、事務局）（一戸）			
第3回：教員の身分、服務、研修（一戸）			
第4回：教員の長時間労働、部活動の地域移行（一戸）			
第5回：教員採用と教員不足（一戸）			
第6回：教育課程と学習指導要領、教科書制度（中村）			
第7回：現行の学習指導要領の主な改訂内容（中村）			
第8回：学校の統廃合（一戸）			
第9回：学校の安全と危機管理（一戸）			
第10回：学校病理（いじめ、不登校、体罰）と対応策（中村）			
第11回：多様な学校のあり方を実現する制度（コミュニティ・スクール、インクルーシブ教育、夜間 中学）（中村）			
第12回：学校の管理と運営（一戸）			
第13回：教育財政と教育費に関する経済的支援（中村）			
第14回：教員評価、教育充実のための施策（一戸）			
第15回：「テスト」と教育行政（全国学力・学習状況調査、大学入試における共通試験）（中村）			

テキスト

なし

参考書・参考資料等

勝野正章・藤本典裕（編）「教育行政学」学文社

青木栄一（編著）「教育制度を支える教育行政」ミネルヴァ書房

学生に対する評価

意欲・態度、課題、レポート等をもとに総合的に評価する。

授業科目名：教育心理学	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：野口和也、今川 ゆき 担当形態：オムニバス
科 目	教育の基礎的理解に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程		
授業のテーマ及び到達目標			
<p>次の5点を到達目標とする。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 発達の特性と発達段階について説明することができる。 2. 学習の仕組みについて説明することができる。 3. 学習意欲を喚起するにはどうしたらよいかを論じることができる。 4. 教師と生徒の関係についての社会心理学的概念を説明することができる。 5. 教育評価はなぜ、どのようにして行うかを述べるることができる。 			
授業の概要			
<p>この科目は、教育職員免許法に定められている「幼児、児童および生徒の心身の発達及び学習の過程」を学習するものである。発達、学習、パーソナリティを中心に、教育に関する基礎的な知識を学び、併せて障害のある児童・生徒の発達についても学習する。</p>			
授業計画			
第1回：教育心理学の目的と体系 ー理論と実践の往還を目指してー (野口)			
第2回：教育心理学の研究法 ー実験と面接を中心にー (今川)			
第3回：子どもの発達と学習の過程①発達の特性 (今川)			
第4回：子どもの発達と学習の過程②発達理論と発達段階 (今川)			
第5回：子どもの発達と学習の過程③行動の分析 (野口)			
第6回：子どもの発達と学習の過程④行動の変容 (野口)			
第7回：学級集団：集団の特性、教師と子どもの関係、仲間関係 (野口)			
第8回：学習指導①学習行動・学習原理 (今川)			
第9回：学習指導②動機づけ・学習指導の方法 (今川)			
第10回：生徒指導：生徒指導の意義、生徒の理解、問題行動の指導 (野口)			
第11回：特別活動（特別活動の意義、特別活動の指導、問題行動の指導 (野口)			
第12回：自己とパーソナリティ (今川)			
第13回：学校不適応（不登校、いじめ、自殺など子どもの不適応へのかかわり方） (今川)			
第14回：学習指導と教育評価①学習指導の方法、個に応じた指導 (野口)			
第15回：学習指導と教育評価②教育評価の種類、個人差の理解と指導 (野口)			
テキスト			
なし			

参考書・参考資料等

桜井茂男（監修）黒田祐二（編著）『実践につながる教育心理学』

学生に対する評価

小テスト、中間テスト、レポート、授業の参加態度等により各担当者が評価を行い、それらを総合して科目の評価とする。

授業科目名：特別支援 の理解	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1単位	担当教員名：石岡 れい子 担当形態：単独
科 目	教育の基礎的理解に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する理解		
授業のテーマ及び到達目標			
<ol style="list-style-type: none"> 1. 特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒の障害の特性について説明できる 2. 特別の支援を必要とする生徒に対する学習上、生活上の支援の方法について説明できる。 3. 障害はないが特別の教育的ニーズがある生徒について、学習及び生活の各場面での対応方法について説明できる。 			
授業の概要			
<p>様々な障害等により学校生活を送ることが困難な生徒、また、障害はないが特別の教育ニーズがある生徒に対し、個人の特性と心身の発達を踏まえた援助ができるよう、関係する知識を身につける。また、支援の方法については、各自が身につけるべき事項に加え、関係機関や家庭と連携しつつ支援体制を構築することを学ぶ。</p>			
授業計画			
第1回：特別支援教育の歴史と理念			
第2回：障害の種類と心身の発達			
第3回：特別の支援を必要とする児童・生徒に対する教育課程と自立活動			
第4回：障害の種類に応じた生活支援・学習支援の方法			
第5回：通級学級における特別な教育的ニーズを持つ生徒への対応			
第6回：関係機関や家族との連携支援			
第7回：指導計画・教育支援計画の意義と具体的な方法			
第8回：合理的配慮とユニバーサルデザインについて			
テキスト			
なし			
参考書・参考資料等			
小野隆行（編著） 「特別支援教育重要用語の基礎知識」 学芸みらい社			
学生に対する評価			
試験や小テスト、課題提出、演習の発表、授業中の態度等により総合的に評価する。			

授業科目名：教育課程論	教員の免許状取得のための必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：根城 隆幸、森本 洋介 担当形態：オムニバス
科 目	教育の基礎的理解に関する科目		
施行規則に定める科目区分又は事項等	教育課程の意義及び編成の方法（カリキュラム・マネジメントを含む。）		
授業のテーマ及び到達目標 学校の教育的諸活動の総合的な計画である「教育課程」について、その意義及び編成の方法等を説明できる。			
授業の概要 我が国の教育界は転換期に直面していると言われ、様々な「教育改革プログラム」が策定されている。その中でもとりわけ注目されているのが、「これまでの学校教育の基調を転換する」ことを目指した教育課程の改革である。教職を目指す学生は、教育課程に関する基本的用語・知識、教育課程編成の歴史的変遷、そして新しい教育課程の開発等の理解を深めることが不可欠である。教育課程編成に関わる基本的知識の理解を深めながら、考え方について学ぶ。			
授業計画 第1回：教育課程の意義と目的（森本） 第2回：教育課程の歴史的変遷①（戦後～教育の現代化）（森本） 第3回：教育課程の歴史的変遷②（「ゆとり」教育～PISA型学力）（森本） 第4回：教育課程に関する法制度（森本） 第5回：諸外国の教育課程の現状①（アメリカ、イギリス、韓国）（森本） 第6回：学習指導要領（中学校・高等学校）（根城） 第7回：学校経営・学級経営（根城） 第8回：生徒指導と教育課程（根城） 第9回：教育評価（根城） 第10回：諸外国の教育課程の現状①（フィンランド、カナダ）（森本） 第11回：道徳と総合的な学習の時間（森本） 第12回：学校間連携と接続（根城） 第13回：カリキュラム・マネジメント（森本） 第14回：メディア・リテラシー（森本） 第15回：教育課程の諸問題（森本）			
テキスト なし			
参考書・参考資料等 『小学校学習指導要領及び解説』 文部科学省 実教出版			

『中学校学習指導要領及び解説』	文部科学省	実教出版
『高等学校学習指導要領及び解説』	文部科学省	実教出版
『教育課程（カリキュラム入門）』	柴田義松 編	有斐閣
『教育課程論』	田中智志也 監修	一藝社
学生に対する評価		
授業態度、課題提出、課題発表、定期試験等により総合的に評価する。		

授業科目名：道徳教育 の理論と実践	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：森本 洋介 担当形態：単独
科 目	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等 に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	道徳の理論及び指導法		
授業のテーマ及び到達目標 我が国の道徳教育の変遷について理解し、道徳的実践力を培うための指導について理解できる。また、諸外国の道徳教育について文献から調べ説明ができるとともに、人間のあり方、生き方について自分の考えをまとめることができる。			
授業の概要 よりよい生き方を求め実践する人間育成とその基盤となる道徳性を涵養することが、道徳教育の役割であることを踏まえ、授業では、学校教育における道徳教育の変遷について調べ認識を深めさせる。さらに、学習指導要領の改訂を押さえ、今日の学校教育における道徳教育の展開について、実践に基づく道徳教育の理解力及び指導力の向上を図る。			
授業計画 第1回：道徳教育の意義と目標（道徳教育とは何か、道徳教育と教師） 第2回：道徳教育の内容と特質（現代社会と道徳教育） 第3回：道徳教育の歴史的経緯（戦後の道徳教育の歩み） 討議・発表 第4回：諸外国の道徳教育 討議・発表 第5回：道徳の指導計画（全体計画、年間指導計画、学級指導計画） グループワーク 第6回：道徳の時間の指導（学習指導案の内容、学習指導案の作成）グループワーク 第7回：教育活動全体を通じて行う指導①（各教科、総合的な学習の時間） 第8回：教育活動全体を通じて行う指導②（特別活動） 第9回：家庭や地域社会との連携 障害を持った人をとりまく社会 第10回：生徒理解に基づく道徳教育の評価 第11回：道徳教育の実践①（指導計画） 討議・発表 第12回：道徳教育の実践②（学習指導案の作成） 討議・発表 第13回：道徳教育の実践③（教材研究） 第14回：道徳教育の実践④（模擬授業） グループワーク 第15回：これからの学校における道徳教育 定期試験			
テキスト 「中学校学習指導要領解説 特別の教科 道徳編」文部科学省（平成29年告示） 「小学校学習指導要領開設 総則編」文部科学省			

参考書・参考資料等

「道徳教育の本質と実践原理」 村田昇（玉川大学出版部）

「道徳教育の理論と実践」 橋本太朗（酒井書店）

「新学習指導要領の展開」 柴原弘志編（明治図書）

学生に対する評価

定期試験と提出物、授業中の取り組み・発言等によって総合的に評価する。

授業科目名：総合的な学習の時間の指導法	教員の免許状取得のための必修科目	単位数：2単位	担当教員名：富澤 美千子 担当形態：単独
科目	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目		
施行規則に定める科目区分又は事項等	総合的な学習の時間の指導法		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>①「総合的な学習の時間」の歩みや教育課程における位置づけを理解する。</p> <p>②「総合的な学習の時間」の目標をふまえた指導計画の作成の考え方を理解し、指導体制と方法、評価に関する知識・技能など基礎的な能力、実践力を身に付ける。</p> <p>③児童・生徒がこれからの社会を生きる上で必要な自律的・創造的・横断的な力を育成し支援する教師の資質の向上とその能力を養う。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>「総合的な学習の時間」の歩み、意義、必要性、教育課程の位置づけや性格を、歴史的変遷を確認し明らかにする。また各学校における目標や内容をふまえた指導計画の作成、指導方法、評価、学習指導案の作成についての知識・技能、実践上の留意点などを学ぶ。「総合的な学習の時間」の学習活動の事例学習をとおして、「総合的な学習の時間」立案に必要な知識や方法、教育観について学ぶ。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：授業全体の概要（目標、内容、方法、評価）を確認する</p> <p>第2回：授業設置の背景① 戦後の教育課程の歴史的変遷と総合的な学習の時間の授業設置の背景を理解する</p> <p>第3回：授業設置の背景② 総合的な学習の時間の授業が新設された時の概要について理解する</p> <p>第4回：授業設置の背景③ 現行の総合的な学習の時間の概要を理解し、課題や問題点について考察する</p> <p>第5回：「総合的な学習の時間」の事例① 歴史的に源流になるような実践から学ぶ</p> <p>第6回：「総合的な学習の時間」の事例② 現代の事例から学ぶ（協働的な学習）</p> <p>第7回：「総合的な学習の時間」の事例③ 現代の事例から学ぶ（探究的な学習）</p> <p>第8回：「総合的な学習の時間」の授業デザイン① 探究的な学習を協働的な学習として行えるような授業を創造できるような手段や方法について理解する</p> <p>第9回：「総合的な学習の時間」の授業デザイン② 探究的で協働的な学びを創るために、学習ツールやICTをどのように活用したらよいか理解する</p> <p>第10回：「総合的な学習の時間」を創る① 課題設定について、留意点を理解し実際に創る</p> <p>第11回：「総合的な学習の時間」を創る② 情報収集と整理・分析について、留意点を理解し実際に創る</p>			

- 第12回：「総合的な学習の時間」を創る③ まとめ・表現について、留意点を理解し実際に創る
 第13回：「総合的な学習の時間」を創る④ 授業計画案の立て方と評価の仕方について理解し、実際に創る
 第14回：「総合的な学習の時間」を創る⑤ 授業計画案の発表をする
 第15回：「総合的な学習の時間」の授業のまとめ

テキスト

- 「中学校学習指導要領解説 総合的な学習の時間編」（最新版） 文部科学省
 「高等学校学習指導要領（平成30年告示）解説 総合的な探究の時間編」 文部科学省
 「子どもたちの創造力を育む総合的な学習の時間」 富澤美千子/著 大学教育出版

参考書・参考資料等

- 「今、求められる力を高める総合的な学習の時間の展開」「中学校編」（最新版） 文部科学省
 「小学校学習指導要領解説 総合的な学習の時間編」（最新版） 文部科学省

学生に対する評価

- ①最終レポート 50%
 ②小レポート 30%
 ③授業振り返りコメントカード・発言等総合評価 20%

授業科目名：特別活動 論	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：田代 高章 担当形態：単独
科 目	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	特別活動の指導法		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>次の2事項を到達目標とする。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 特別活動の重要性と今日的な課題を説明できる。 2. 特別活動の概念と指導の実際を説明できる。 			
<p>授業の概要</p> <p>目まぐるしく移り変わる社会の変化の中で21世紀をたくましく生きる力を育てるため、豊かな人間性を育むと共に、一人一人の個性を生かしてその能力を十分に伸ばしていく教育の在り方が問われている。しかし、日常的に子ども達と接触しているホームルーム担任は、担任としての仕事と教科指導の仕事が渾然一体として、「教師の仕事」の中で、担任としてしなければならないことは何なのかさえも、必ずしも明確にされにくい状況下に置かれてきた。</p> <p>また、特別活動が教職単位として必修化されはしたが、特にこの領域に関する免許が与えられているわけでもないこと等から、「誰でも指導できるはず」であると見過ごされ、計画的・継続的に指導されている現場もあるが、そうとは言い難い現場が多いのが実情である。</p> <p>そこで、特別活動の重要性と、しっかりとした概念把握や指導法を身に付けていくことが、上記の教育の在り方にも応える結果につながることを理解させたい。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：特別活動の歴史と目標</p> <p>第2回：特別活動の内容と特質</p> <p>第3回：集団と集団活動</p> <p>第4回：リーダー論</p> <p>第5回：対人行動の心理</p> <p>第6回：教育活動の指導原理</p> <p>第7回：特別活動の指導原理</p> <p>第8回：望ましい人間関係の指導</p> <p>第9回：学級活動・ホームルーム活動の内容と特質</p> <p>第10回：学級活動・ホームルーム活動の指導の実際</p> <p>第11回：生徒会活動の内容と特質</p> <p>第12回：生徒会活動の指導の実際</p> <p>第13回：学校行事の内容と特質</p>			

第14回：学校行事の指導と実際

第15回：クラブ活動と部活動の指導

テキスト

なし

参考書・参考資料等

高等学校学習指導要領解説（特別活動編）

特別活動の基礎と展開（関川悦雄著）

高等学校学習指導要領の展開…特別活動編（鹿島研之助他編著）

「特別活動の理論と方法（改訂版）」 江川 玫成 編（学芸図書）

小学校学習指導要領（平成29年告示）解説 総則編

学生に対する評価

授業時の小論文・小テスト（出席の確認含む）60%、定期試験40%で評価。

授業科目名：教育方法論（ICT活用含む）	教員の免許状取得のための必修科目	単位数：2単位	担当教員名：担当教員名：森本 洋介、坂本 貴博
			担当形態：オムニバス
科 目	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目		
施行規則に定める科目区分又は事項等	教育の方法及び技術 情報通信技術を活用した教育の理論及び方法		
<p>教育技術（情報機器を活用した効果的な授業方法を含む）と教育評価の基本的な理論と事項について理解する。主体的・対話的で深い学びの実現における基本的な要素を理解する。そのうえで、それらを実践するための基本的なスキルを獲得する。また、主体的・対話的で深い学びにおける学習者の学びをどのように評価するのか、パフォーマンス評価の方法についても理解する。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>本授業は、学習者の学びに対する意欲を引き出すための授業方法（情報機器を活用した効果的な授業方法を含む）および評価方法について、経験的に学ぶことを目的としている。つまり、授業で取り扱う学習項目も重要であるが、自分たちがどのような授業を受けているのかを、方法論的に意識化できるようにすることにより重点を置いて授業を進める。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：オリエンテーション 教育方法の概要（森本）</p> <p>第2回：教育技術の基本（教材、教授行為、学習形態、ICTの活用）（森本）</p> <p>第3回：主体的・対話的で深い学びの原理（森本）</p> <p>第4回：ICTを活用した主体的・対話的で深い学びの実践①問題解決型学習（問題提起編）（森本）</p> <p>第5回：ICTを活用した主体的・対話的で深い学びの実践②問題解決型学習（解決編）（森本）</p> <p>第6回：ICTを活用した主体的・対話的で深い学びの実践③テキスト分析（森本）</p> <p>第7回：校務におけるICT機器の活用、生成AIと学習指導（坂本）</p> <p>第8回：ICT環境整備、統合型校務支援システムの活用・推進（坂本）</p> <p>第9回：学習評価に関する理論（森本）</p> <p>第10回：真正の評価①（ルーブリックとは何か、校務におけるルーブリックの活用）（森本）</p> <p>第11回：真正の評価②（ルーブリック作成演習、実際に校務でルーブリックをどのように作成しているか、その支援にどのような人が関わっているか）（森本）</p> <p>第12回：ICTを活用したパフォーマンス課題の設計（設計編）（森本）</p> <p>第13回：主体的・対話的で深い学びの実践⑤ワールドカフェ形式で教科横断的な情報活用能力と情報モラルの取り扱いについて考える（森本）</p> <p>第14回：ICTを活用したパフォーマンス課題の設計（検討編）（森本）</p> <p>第15回：教育方法論に関する総合的な演習（森本）</p> <p>定期試験</p>			

テキスト

【総則編】小学校学習指導要領（平成29年告示）解説

【総則編】中学校学習指導要領（平成29年告示）解説

【総則編】高等学校学習指導要領（平成30年告示）解説

参考書・参考資料等

ルネ・ホップス、デビッド・クーパー・ムーア著：森本洋介監訳『メディア・リテラシー教育と出会うー小学生がデジタルメディアとポップカルチャーに向き合うために』弘前大学出版会、2016年3月

学生に対する評価

定期試験(60%)、授業内活動実習(40%)

授業科目名：生徒指導 論	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：野口 和也 担当形態：単独
科 目	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	生徒指導の理論及び方法		
次の2事項を到達目標とする。 1. 生徒指導の意義と内容、及び今日的な課題を説明できる。 2. 生徒指導の実践的な内容とその指導の実際を説明できる。			
<p>授業の概要</p> <p>それぞれの学校の現場では「生徒指導」という言葉で色々な取り組みが行われている。しかし、その受け止め方は各学校によってまちまちであり、更に各教師によっても違っているのが実情である。</p> <p>このような生徒指導の現状は、教員養成の段階で、教育職員免許法の改定によって「生徒指導等に関する科目」が必修になったのにも関わらず、ややもすれば理論的な面に終始し、現場での実践を踏まえた講義が学生に十分になされていないことに起因するのではないかと考えられる。そこで、生徒指導とは「生徒の自己指導能力」を育てる事であるという認識の基に生徒指導論を展開させ、将来教壇に立つ学生の実践的な指導力を少しでも高めさせていきたい。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：生徒指導の歴史と目的</p> <p>第2回：生徒指導の指導内容と今日的課題</p> <p>第3回：生徒指導と教育課程</p> <p>第4回：生徒指導の組織と役割</p> <p>第5回：生徒指導と関連機関の連携</p> <p>第6回：生徒理解の意味と機能</p> <p>第7回：生徒理解の領域と内容</p> <p>第8回：資料収集の方法</p> <p>第9回：集団指導の意味と形態</p> <p>第10回：集団指導の実際と留意点</p> <p>第11回：個別指導の意味と留意点</p> <p>第12回：教育相談と学校教育相談</p> <p>第13回：問題行動の概念と種類</p> <p>第14回：問題行動の原因</p> <p>第15回：問題行動指導の実際と留意点</p> <p>定期試験</p>			

テキスト

なし

参考書・参考資料等

生徒指導提要（文部科学省）

生徒指導必携（青森県教育委員会発行）

生徒指導の機能と方法（坂本昇一著）

最近の生徒指導と進路指導（吉田辰雄編）

Q & A 生徒指導の法律知識（下村哲夫著）

江川 玫成 編 『生徒指導の理論と方法（改訂版）』 学芸図書

学生に対する評価

授業時の小論文（出席の確認含む）60%、定期試験40%で評価。

授業科目名：教育相談	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：野口 和也 担当形態：単独
科 目	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教育相談（カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。）の理論及び方法		
授業のテーマ及び到達目標			
<p>教師に求められる教育相談についての基本的知識を習得し、方法としての教育相談を学ぶだけではないに、かけがえのない一人ひとりの子どもや保護者を大切にできる。さらに、自らを振り返り、他者を大切にすることを学ぶことで、子どもの充実した学校生活を支えることができることを目標とする。</p>			
授業の概要			
<p>子どもは、日々成長し、生活する中で諸問題に直面する可能性がある。問題解決の方策として、教師は専門知識を持ち、具体的解決策や予防法を習得する必要に迫られている。また、知識のみならず、子どもや保護者との信頼関係の構築が不可欠であり、そのための教育相談の重要性を認識し、真摯に取り組む姿勢が求められている。そのためにも、授業では、教育相談に必要な知識や態度について講義や討議などを通して学んでいく。</p>			
授業計画			
第1回：教育相談の意義と役割（教育相談とは何か、教師が行う教育相談）			
第2回：教育相談の理論と方法			
第3回：カウンセリングの意義と目的 グループワーク			
第4回：カウンセリングの理論と方法			
第5回：生徒理解の方法①（子ども理解のための基礎知識、子どもとの関わり） 討議・発表			
第6回：生徒理解の方法②（子どもの理解に先立つ教師の自己理解） 討議・発表			
第7回：事例研究の意義と活用法			
第8回：教育相談活動の実践事例①（不登校） グループワーク			
第9回：教育相談活動の実践事例②（いじめ） グループワーク			
第10回：教育相談活動の実践事例③（発達障害） グループワーク			
第11回：教育相談活動の実践事例④（児童虐待） グループワーク			
第12回：教育相談活動の実践事例⑤（学業不振） グループワーク			
第13回：教育相談活動の実践事例⑥（家族カウンセリング） グループワーク			
第14回：保護者との連携と支援のあり方			
第15回：他職種との連携のあり方（校内連携、校外連携）			
テキスト			
「生徒指導提要」文部科学省（教育図書）			

参考書・参考資料等

- ①「学校が求めるスクールカウンセラー～アセスメントとコンサルテーションを中心に～」村瀬嘉代子監修、東京学校臨床心理研究会編（遠見書房）
- ②「新しい学校教育相談の在り方と進め方」栗原慎二（ほんの森出版）
- ③「養護教諭のコミュニケーション」海保博之・田村節子（少年写真新聞社）

学生に対する評価

定期試験と提出物、授業中の取り組みや発言などによって総合的に評価する。

授業科目名：進路指導 論	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1単位	担当教員名：山本 奨 担当形態：単独
科 目	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	進路指導及びキャリア教育の理論及び方法		
<p>(1) 進路指導とキャリア教育について、それぞれの関係性とその背景・歴史・意義の概略を理解している。</p> <p>(2) 教育活動全体を通じて行われるキャリア教育の現状と課題について理解し、指導計画の立て方と指導の在り方を説明することができる。</p> <p>(3) キャリア教育の観点から、家庭や地域、関係機関との連携の在り方や小学校から大学までの連携の視点を理解している。</p> <p>(4) キャリア・カウンセリングの基礎的な考え方を理解している。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>所謂「出口指導」に偏ってしまった進路指導と「職場体験」さえすれば事足りりとする風潮を一部に生み出してしまったキャリア教育に対する誤解を排し、進路指導とキャリア教育の背景やその意義・目標を学習し、キャリア教育の現状や課題を整理することによって、進路指導とキャリア教育に対する理解を深め、教育実践に結び付けられるようにする。また、学校と家庭や地域、関係機関との連携の現状や課題を学習し、協働の観点からキャリア教育を考える。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：進路指導の歴史的展望（戦後から平成）</p> <p>第2回：進路指導の組織・体制</p> <p>第3回：進路指導の実際と教師としての関わり方</p> <p>第4回：進路指導からキャリア教育へ</p> <p>第5回：キャリア教育の理念と基礎理論</p> <p>第6回：各校種におけるキャリア教育の実際</p> <p>第7回：新学習指導要領とキャリア教育</p> <p>第8回：キャリアカウンセリングの基礎と実際</p>			
<p>テキスト</p> <p>なし</p>			
<p>参考書・参考資料等</p> <p>中学校キャリア教育の手引き（最新版）（文部科学省）、高等学校キャリア教育の手引き（最新版）（文部科学省）、教職シリーズ7進路指導（新井邦二郎編 培風館）</p>			
<p>学生に対する評価</p> <p>レポート試験、授業内テスト、授業への取組み姿勢などにより総合的に判断する。</p>			

シラバス：教職実践演習

シラバス：教職実践演習(小中高)		単位数：2単位		担当教員名：木村 浩哉、根城 隆幸	
科 目	教育実践に関する科目				
履修時期	4年次後期	履修履歴の把握(※1)	○	学校現場の意見聴取(※2)	○
受講者数40人					
教員の連携・協力体制 専門教科が異なる教員経験者2名により、学校現場を意識した多面的な指導・評価を行う。					
授業のテーマ及び到達目標 1. 教員の使命・役割と職務について説明できる。 2. 子どもを取り巻くさまざまな問題に臨機応変に対応できる。 3. 保護者・地域との連携・協働のあり方について説明できる。					
授業の概要 ロールプレイや、グループまたは個人での事例分析・研究を行い、学級づくり、保護者や地域との連携等、学校の教育活動を円滑に進めていくうえでの資質能力の向上と実践力を身につける。					
授業計画 第1回：ガイダンス、新採用教員の課題（社会人基礎力） 第2回：教育実習の省察（自身の課題と課題解決を考える） 第3回：学級年間経営案の作成とグループ討論 第4回：学級の活性化とグループ討論 第5回：学級崩壊、いじめ、不登校への対応（チーム学校への対応を含む） 第6回：学校におけるICT活用（文書作成） 第7回：学校におけるICT活用（集計処理、オンライン演習） 第8回：学校におけるICT活用（プレゼンテーション） 第9回：教職課程の省察（履修カルテのICT活用） 第10回：コミュニケーション力、児童生徒理解（グループ討論） 第11回：模擬授業（ICTを用いた学習指導案作成） 第12回：模擬授業（ICTを活用） 第13回：特別支援教育の理解（実務家教員から学ぶ） 第14回：学校の安全・危機管理、保護者との連携（実務家教員から学ぶ） 第15回：教育実習報告会、まとめ					
テキスト					

参考書・参考資料等

樋口直宏、林尚示、牛尾直行編著「実践に活かす教育課程論・教育方法論」学事出版

学生に対する評価

演習に取り組む態度、個人・グループで作成した文書等の成果、討議・考察後の発表内容を総合的に評価する。

- ※1 履修カルテを作成し、これを踏まえた指導を行う体制が備えられていることを確認し、「○」と記載すること。
- ※2 授業計画の立案にあたって教育委員会や学校現場の意見を聞いた場合には「○」と記載すること。そうでない場合は空欄とせず、「×」とすること。

授業科目名：日本国憲法	教員の免許状取得のための必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：高須 則行 担当形態：単独
科目	教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目		
施行規則に定める科目区分又は事項等	日本国憲法		
授業のテーマ及び到達目標			
<p>1) 日本国憲法の理念・構造を説明できる。</p> <p>2) 基本的人権の精神およびその内容、平和の尊さを考え、民主政治の仕組みを説明できる。</p>			
授業の概要			
<p>本講義では、私たちの国家の基本的在り方を決めている日本国憲法について、その基本原理として挙げられている国民主権、基本的人権の保障、平和主義の理念、権力分立制がどのような働きをしているのかを判例を踏まえながら理解してもらうことを目的とする。</p>			
授業計画			
第1回：憲法へのいざない：日常生活における基本的人権の問題)			
第2回：憲法の位置付け：憲法の最高法規性			
第3回：憲法の基本原理：国民主権・基本的人権の保障・権力分立制・平和主義			
第4回：憲法の歴史：近代憲法から現代憲法へ			
第5回：基本的人権の性質			
第6回：基本的人権の体系			
第7回：法の下での平等			
第8回：自由権（1）：精神的自由（信教の自由）			
第9回：自由権（2）：精神的自由（表現の自由）			
第10回：自由権（3）：人身の自由			
第11回：自由権（4）：経済的自由			
第12回：社会権			
第13回：統治機構（1）：三権分立制の意義			
第14回：統治機構（2）：三権分立制の関係			
第15回：地方自治			
テキスト			
『憲法概観（再訂補訂版）』（司法協会）			
参考書・参考資料等			
なし			
学生に対する評価			
定期試験および小テスト等により総合的に評価する。			

授業科目名：スポーツ の科学	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：泉水朝宏、渡邊 陵由、有光琢磨、工藤祐太郎 、平塚和也
			担当形態：オムニバス
科 目	教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	体育		
授業のテーマ及び到達目標			
<p>1) 現代社会におけるスポーツの意義を説明することができる。</p> <p>2) 自分自身の健康を保つためのスポーツトレーニングを実践することができる。</p> <p>3) スポーツパフォーマンスを決定する原理原則を説明することができる。</p>			
授業の概要			
<p>現代社会においてスポーツの持つ役割はますます重要なものとなっている。スポーツの本質を理解することは、スポーツの専門家を目指す場合だけではなく、健全な市民として身に付けるべき教養として不可欠なものであり、それは自然科学、人文科学、社会科学をはじめとする諸学問の力を借りる必要がある。本講義では、自らの心身を健康に保つため、そして生涯にわたりスポーツに親しむために必要となるスポーツの科学的知識を理解することを目的とする。</p>			
授業計画			
第1回：体力とは何か（泉水）			
第2回：体力の測定 ①（握力・上体起こし・長座体前屈）（泉水、渡邊、工藤、有光）			
第3回：体力の測定 ②（反復横跳び・立ち幅跳び）（泉水、渡邊、工藤、有光）			
第4回：体力の測定 ③（50m走・ハンドボール投げ）（泉水、渡邊、工藤、有光）			
第5回：体力の測定 ④（20mシャトルラン）（泉水、渡邊、工藤、有光）			
第6回：体力評価の方法（工藤）			
第7回：スポーツと科学の関わり（工藤）			
第8回：体力を高める方法（平塚）			
第9回：トレーニングへの体力測定の活用（平塚）			
第10回：トレーニングの構成の実際（有光）			
第11回：生涯スポーツと体力トレーニング（有光）			
第12回：運動生理学の基礎 ①運動と呼吸循環器系・エネルギー代謝（渡邊）			
第13回：運動生理学の基礎 ②運動と骨格系・神経系・内分泌系（渡邊）			
第14回：スポーツのバイオメカニクス ①スポーツ力学（泉水）			
第15回：スポーツのバイオメカニクス ②動作の観察（泉水）			
テキスト			
なし			

参考書・参考資料等

- ・ 深代千之監修「スポーツを科学しよう! : トレーニング・競技から用具まで」(PHP研究所)
- ・ 鹿屋体育大学スポーツトレーニング教育研究センター編 ; 西菌秀嗣著者代表「スポーツ選手と指導者のための体力・運動能力測定法 : トレーニング科学の活用テクニック」(大修館書店)
- ・ 宮西智久編 ; 岡田英孝, 藤井範久著「スポーツバイオメカニクス」(化学同人)
- ・ 日本トレーニング指導者協会「トレーニング指導者テキスト」(大修館書店)

学生に対する評価

講義への参加態度(発問への答えなど)、課題、小テストの成績から総合的に評価する。オムニバス科目であるためそれぞれの教員の評価の総計をもって評価する。また、原則として再試験・追試験は行わない。

授業科目名：英語 I	教員の免許状取得のための 選択必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：バリー グロスマン、グレゴリー アンソニー、三浦 文恵
			担当形態：クラス分け・単独
科 目	教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	外国語コミュニケーション		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>学期の終了までに英語の使用を通じて、アクティブラーニング法（グループ活動、提案の準備、タスクの作成、期限厳守、他の学生とやり遂げた評価など）により自分自身の能力向上ができる。</p> <p>学習者のリスニング能力を伸ばすことに焦点を当てた、魅力的でインタラクティブな活動を通して、英語力を高めることを目的としています。主な目的は、生徒が積極的に参加し、本物の英語音声教材に没頭できる環境を作り、最終的に理解力を養い、総合的な語学力を高めることです。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>この講義は、タスクを中心にする授業で、英語自体が目的ではなく、英語をコミュニケーションの手段として、コミュニケーション力をアップする事を目的とする。いろいろな形式を用いながら、グループで、タスクの価値を考え、計画し、その内容を分析する。決められたタスクをやり遂げることにより、流暢な英語のコミュニケーションを身につけ、学内でも学外でも使える実用的なコミュニケーションスキルアップを図る。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：Self Introduction (Presentation)</p> <p>第2回：Warm-up Unit Welcome to English Class! (Presentation)</p> <p>第3回：Unit 1 Speaking About Yourself ① (Presentation)</p> <p>第4回：Unit 1 Speaking About Yourself ② (Group Work)</p> <p>第5回：Unit 2 What Do You Do? ① (Presentation)</p> <p>第6回：Unit 2 What Do You Do? ② (Group Work)</p> <p>第7回：Unit 3 What Does He Look Like? ① (Presentation)</p> <p>第8回：Unit 3 What Does He Look Like? ② (Group Work)</p> <p>第9回：Review Units 1-3</p> <p>第10回：Unit 4 Where Are You From? ① (Presentation)</p> <p>第11回：Unit 4 Where Are You From? ② (Group Work)</p> <p>第12回：Unit 5 Likes and Dislikes ① (Presentation)</p> <p>第13回：Unit 5 Likes and Dislikes ② (Group Work)</p> <p>第14回：Unit 6 What's She Like? ① (Presentation)</p> <p>第15回：アメリカと日本の生活・風習・文化の違いについて</p>			

テキスト

Peter Vincent/Naoko Nakazato/Alan Meadows 著「Speaking of People」南雲堂

参考書・参考資料等

なし

学生に対する評価

定期試験の結果をベースに、授業態度、課題の提出状況などを考慮し総合的に評価する。特に、講義に積極的に臨む姿勢を重視する。

授業科目名：英語Ⅱ	教員の免許状取得のための 選択必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：バリー グロスマン、グレゴリー アンソニー、三浦 文恵 担当形態：クラス分け・単独
科目	教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	外国語コミュニケーション		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>学期の終了までに英語の使用を通じて、アクティブラーニング法（グループ活動、提案の準備、タスクの作成、期限厳守、他の学生とやり遂げた評価など）により自分自身の能力向上ができる。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>この講義は、タスクを中心にする授業で、英語自体が目的ではなく、英語をコミュニケーションの手段として、コミュニケーション力をアップする事を目的とする。いろいろな形式を用いながら、グループで、タスクの価値を考え、計画し、その内容を分析する。決められたタスクをやり遂げることにより、流暢な英語のコミュニケーションを身につけ、学内でも学外でも使える実用的なコミュニケーションスキルアップを図る。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：Unit 6 What's She Like? ② (Group Work)</p> <p>第2回：Review Units 4-6</p> <p>第3回：Unit 7 Tell Me About Your Family ① (Presentation)</p> <p>第4回：Unit 7 Tell Me About Your Family ② (Group Work)</p> <p>第5回：Unit 8 Communication ① (Presentation)</p> <p>第6回：Unit 8 Communication ② (Group Work)</p> <p>第7回：Unit 9 How Are You Feeling? ① (Presentation)</p> <p>第8回：Unit 9 How Are You Feeling? ② (Group Work)</p> <p>第9回：Review Units 7-9</p> <p>第10回：Unit 10 Memories① (Presentation)</p> <p>第11回：Unit 10 Memories② (Group Work)</p> <p>第12回：Unit 11 Talking About Health ① (Discussion)</p> <p>第13回：Unit 11 Talking About Health ② (Group Work)</p> <p>第14回：Unit 12 Mindset (Discussion)</p> <p>第15回：アメリカ人と日本人の価値観・考え方の違いについて</p>			
<p>テキスト</p> <p>Peter Vincent/Naoko Nakazato/Alan Meadows 著「Speaking of People」南雲堂</p>			
<p>参考書・参考資料等</p>			

なし

学生に対する評価

定期試験の結果をベースに、授業態度、課題の提出状況などを考慮し総合的に評価する。特に、講義に積極的に臨む姿勢を重視する。

授業科目名：英語コミュニケーション	教員の免許状取得のための 選択必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：バリー グロスマン 担当形態：単独
科 目	教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	外国語コミュニケーション		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>このクラスでは、効果的な英語コミュニケーションスキル、特にリスニングとスピーキングに焦点を当てます。このクラスでは、特にリスニングとスピーキングに重点を置き、日本や海外で起こりうる様々な言語状況に備えます。効果的なコミュニケーションは、意思疎通を図ることから始まるので、このクラスでは、「自分の英語の声を見つける」ことや、外国語でのコミュニケーションにおける恐れや不安を克服することにも役立ちます。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>このクラスでは、コミュニケーションに必要なすべての英語スキルの向上に焦点を当てます。リスニング、スピーキング、リーディング、ライティングのすべてを効果的なコミュニケーションのために練習します。</p>			
<p>授業計画</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. Class Introduction & Self-Introduction Tasks クラス紹介と自己紹介 2. Useful Expressions: Travel: Discussing favorite travel destinations, memorable trips, or dream vacations. 役立つ表現：旅行：お気に入りの旅行先、思い出に残る旅行、夢の休暇についての会話 3. Useful Expressions: Hobbies: Talking about hobbies and interests such as reading, sports, painting, or playing a musical instrument. 役立つ表現：趣味：読書、スポーツ、絵画、楽器演奏など、趣味や興味についての会話 4. Useful Expressions: Food and Cuisine: Exploring different types of cuisine, favorite dishes, or traditional foods from different countries. 役立つ表現：食べ物と料理：様々な種類の料理、好きな料理、異なる国の伝統的な食べ物についての探求 5. Useful Expressions: Technology: Discussing the impact of technology on daily life, favorite gadgets, or social media platforms. 役立つ表現：テクノロジー：日常生活におけるテクノロジーの影響、お気に入りのガジェット、ソーシャルメディアプラットフォームについての議論 6. Useful Expressions: Environment: Talking about environmental issues, recycling, conservation, or sustainable practices. 役立つ表現：環境：環境問題、リサイクル、自然保護、持続可能な慣行についての会話 7. Conversation Mid-term Evaluations 			

効果的なコミュニケーション・会話演習と中間評価

8. Useful Expressions: Education: Discussing favorite subjects, school experiences, or educational goals.

役立つ表現：教育：好きな科目、学校での経験、教育目標についての会話

9. Useful Expressions: Culture and Traditions: Exploring cultural celebrations, customs, or traditions from various countries.

役立つ表現：文化と伝統：様々な国の文化的なお祝い、習慣、伝統についての探求

10. Useful Expressions: Health and Fitness: Talking about exercise routines, healthy eating habits, or ways to maintain a healthy lifestyle.

役立つ表現：健康とフィットネス：運動習慣、健康的な食生活、健康的なライフスタイルを維持する方法についての会話

11. Useful Expressions: Music and Entertainment: Discussing favorite music genres, concerts, movies, or TV shows.

役立つ表現：音楽とエンターテインメント：好きな音楽ジャンル、コンサート、映画、テレビ番組についての会話

12. Useful Expressions: Relationships: Talking about friendships, family dynamics, or romantic relationships

役立つ表現：人間関係：友情、家族関係、恋愛関係についての会話

13. Useful expressions: Current Events: Discussing recent news topics, social issues, or global events.

役立つ表現：時事問題：最近のニュース、社会問題、世界的な出来事についての議論

14. Useful Expressions: Sports: Discussing favorite sports, sports events, or personal experiences with sports activities.

役立つ表現：スポーツ：好きなスポーツ、スポーツイベント、スポーツ活動の個人的な経験についての会話

15. Useful Expressions: Future Plans: Talking about career aspirations, dreams, or goals for the future.

役立つ表現：将来の計画：キャリアの願望、夢、将来の目標についての会話

テキスト

「English Central アカデミックプレミアム 6カ月」 (オンラインアクセスカード)

参考書・参考資料等

なし

学生に対する評価

講義内での積極的な参加（アクティブラーニング法）、宿題、クラスクイズを総合的に評価する。

授業科目名：ドイツ語 I	教員の免許状取得のための 選択必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：高須則行、石原 良明 担当形態：クラス分け・単独
科 目	教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	外国語コミュニケーション		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 発音できる。 2 動詞の現在人称変化ができる。 3 冠詞類の格変化ができる。 4 ドイツ語で自己紹介し、簡単な手紙を書くことができる。 			
<p>授業の概要</p> <p>ドイツ語の初歩を学ぶ。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：世界の言語とドイツ語 アルファベット つづりと発音 あいさつ 曜日、月</p> <p>第2回：人称代名詞と動詞の現在人称変化 最重要動詞sein(英：be)とhaben(英：have) 語順 ja(英：yes)とnein(英：no)</p> <p>第3回：さまざまな疑問詞 自己紹介</p> <p>第4回：名詞の性、冠詞 定冠詞と名詞の格変化 不定冠詞と名詞の格変化 格の用法</p> <p>第5回：職業名・専攻名のいろいろ 趣味はManga 「～するのが好きです」</p> <p>第6回：不規則動詞の現在人称変化 命令形</p> <p>第7回：人称代名詞の格変化 3格目的語と4格目的語の語順 「～しよう」 フランクフルト中央 駅で</p> <p>第8回：名詞の複数形 定冠詞類 不定冠詞類 否定冠詞kein</p> <p>第9回：身につけるもの、家族 買い物 「～はいくらですか」</p> <p>第10回：前置詞の格支配 従属の接続詞と副文 非人称のes</p> <p>第11回：時刻の言い方 チューリヒの町で 「～はどこにありますか」</p> <p>第12回：話法の助動詞 分離動詞</p> <p>第13回：映画を見に行きたい 「～したい」</p> <p>第14回：形容詞の格変化 zu不定詞(句)</p> <p>第15回：「どんな種類の？」 「どのような？」 私のねがい</p>			
<p>テキスト</p> <p>小野寿美子／中川明博／西巻丈児『クロイツング・ネオ(第2版)』朝日出版社</p>			
<p>参考書・参考資料等</p> <p>黒田龍之助『はじめて言語学』講談社現代新書</p>			

福本義憲『はじめてのドイツ語』講談社現代新書

高橋憲『最新版 ドイツの街角から 素顔のドイツーその文化・歴史・社会』郁文堂

学生に対する評価

定期試験と小テスト等により総合的に評価する。

授業科目名：ドイツ語 II	教員の免許状取得のための 選択必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：高須則行、石原 良明 担当形態：クラス分け・単独
科 目	教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	外国語コミュニケーション		
授業のテーマ及び到達目標			
<ol style="list-style-type: none"> 1 発音できる。 2 動詞の現在人称変化と冠詞類の格変化ができる。 3 日常生活で多用される基本表現を使える。 			
授業の概要			
ドイツ語の初級文法を踏まえながら、日常生活に必要な基本的な語彙と表現を学ぶ。			
授業計画			
<p>第1回：春学期「ドイツ語」の要点整理</p> <p>第2回：動詞の3基本形 現在完了 お名前は？</p> <p>第3回：昨日・今日・明日 休暇旅行 「何をしたの？」</p> <p>第4回：過去 再帰動詞と再帰代名詞 オクトーバーフェスト</p> <p>第5回：こんにちは オペラ鑑賞 「どこにいたの？」</p> <p>第6回：形容詞・副詞の比較 関係代名詞 レストランにて</p> <p>第7回：受動形 反対語のいろいろ ホテルに宿泊</p> <p>第8回：接続法 「～がほしいのですが」 誕生パーティー</p> <p>第9回：いくらですか？ マンガ文化</p> <p>第10回：ハンザ都市リューベック 環境首都フライブルク</p> <p>第11回：結婚式の写真 外国人労働者</p> <p>第12回：ポツダム広場へ 食習慣</p> <p>第13回：どこへ行くの？ ノイシュヴァンシュタイン城</p> <p>第14回：路上にて アウシュヴィッツ</p> <p>第15回：道案内 ビールの話</p>			
テキスト			
小野寿美子／中川明博／西巻丈児『クロイツング・ネオ（第2版）』朝日出版社			
参考書・参考資料等			
<p>黒田龍之助『はじめて言語学』講談社現代新書</p> <p>福本義憲『はじめてのドイツ語』講談社現代新書</p> <p>高橋憲『最新版 ドイツの街角から 素顔のドイツーその文化・歴史・社会』郁文堂</p>			
学生に対する評価			

定期試験と小テスト等により総合的に評価する。

授業科目名：韓国語	教員の免許状取得のための 選択必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：崔 桓碩 担当形態：単独
科 目	教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	外国語コミュニケーション		
授業のテーマ及び到達目標			
<p>本講義の学習目標は、韓国語の基本的な文字（ハングル）の構成や基礎的な文法、そして日常生活で使われる様々な表現などについて学習することで、受講生の韓国語能力を向上させることを目標とする。そのために、まずは、音素文字であるハングルの母音・子音を正確に読み書きできることを学習目標とする。次に、基礎語彙を身につけ、簡単な文章についても読み書きできることを学習目標とする。さらには、簡単なあいさつ表現および日常生活に使われる表現などについて学習し、受講生の韓国語能力の向上に努める。</p>			
授業の概要			
<p>本講義では、基礎的な韓国語の文字・文法・表現などについて説明し、受講生の理解を深めるために、実際の発音練習および書く練習を積極的に行う。まず、内容について易しく説明し、その後、実際に書きながら、発音の練習をする。受講生の人数によっては、グループを作成し、その中でお互い話し合う時間も作りたいと考えている。外国語の学習においては、とにかく目と耳がなれることが大事であるため、なるべく発音する時間と聞く時間を確保しながら講義を進めていきたい。</p>			
授業計画			
第1回：ハングルの歴史と構成、そして特徴			
第2回：基本母音・子音と合成母音・子音の学習			
第3回：母音・子音の発音練習（平音・激音・濃音・鼻音・流音）			
第4回：パッチム無しの文字の学習			
第5回：パッチム有りの文字の学習①（1文字のパッチム）			
第6回：パッチム有りの文字の学習②（2文字のパッチム）			
第7回：連音化法則と発音練習			
第8回：ハングルの読み・書き練習、ハングルの日本語表記			
第9回：数字と時刻の読み方と年月日・曜日などを表す言葉の学習			
第10回：簡単なあいさつと自己紹介の表現			
第11回：基本的な文章の構成と表現（～は○○です。）			
第12回：否定形の文章の表現（～は○○ではありません。）			
第13回：過去形の文章の表現（～は○○でした。）			
第14回：助詞の使い方とその活用練習			
第15回：動詞の使い方とその活用練習			

テキスト

なし

参考書・参考資料等

1. 李昌圭著『日常会話から文法まで学べる はじめての韓国語』ナツメ社

学生に対する評価

本講義の評価は、授業毎のワークシートと定期試験により評価する。

授業科目名：中国語	教員の免許状取得のための 選択必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：楊 麗栄 担当形態：単独
科 目	教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	外国語コミュニケーション		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>ゲームやロールプレイを通して、中国語の母音、子音、声調などの発音をマスターすることができる。また、中国語の基本構文などの学習を通して、名前や出身、所属、家族などについて紹介することができ、簡単な挨拶や日常会話を理解し、応用できるようになる。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>この授業は、発音や自己紹介、お誘い、レストランでの注文、買い物、道案内などの簡単な日常会話を習得することを目的としている。授業では「聞く」「話す」「読む」「書く」の4つの技能をバランスよく身につけるため、ゲームやロールプレイを活用して楽しく練習する。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：中国語の発音：子音、母音、声調について</p> <p>第2回：自己紹介①—名前、出身（人称代名詞、名前の聞き方）</p> <p>第3回：自己紹介①—名前、出身（“是”構文の使い方）</p> <p>第4回：自己紹介②—所属、専攻（「動詞述語文」の使い方、指示代名詞）</p> <p>第5回：自己紹介②—所属、専攻（場所代名詞、疑問詞疑問文、連体修飾語を作る“的”）</p> <p>第6回：自己紹介③—家族について（所在を表す“在”、所有と存在を表す“有”の使い方）</p> <p>第7回：自己紹介③—家族について（方位詞の使い方、名詞述語文、文末助詞“了”の使い方）</p> <p>第8回：お誘い①（前置詞“在”、連動文の使い方）</p> <p>第9回：お誘い②（反復疑問文）</p> <p>第10回：お誘い③（年月日、曜日、時刻の言い方）</p> <p>第11回：レストラン①（選択疑問文）</p> <p>第12回：レストラン②（“想”と“要”の使い方、省略疑問文、数量詞の使い方）</p> <p>第13回：買い物①（形容詞述語文、比較文の使い方）</p> <p>第14回：買い物②（助動詞“能”と“可以”の使い方）</p> <p>第15回：まとめ</p>			
<p>テキスト</p> <p>ライト版 中国語でコミュニケーション（沈国威・氷野善寛・小嶋美由紀・海曉芳・紅粉芳恵・阿部慎太郎 共著／朝日出版社／¥2,530／ISBN=9784255453552）</p>			
<p>参考書・参考資料等</p> <p>なし</p>			
<p>学生に対する評価</p>			

成績評価は、授業中の学習状況及び試験の評点により行います。

授業科目名：情報処理 基礎	教員の免許状取得のための 選択必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：村本 卓、坂本 貴博、馬場祥次 担当形態：クラス分け・単独
科 目	教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	情報機器の操作		
授業のテーマ及び到達目標			
<ol style="list-style-type: none"> 1. レポート作成、図表作成技術を活用できる。 2. 表計算でのデータを理解し適切に扱える。 3. グループウェアの活用、インターネットでの情報検索ができる。 			
授業の概要			
<p>今日、コンピュータは職場や家庭で広く使われており、大学においてもレポート課題、データ整理・分析、諸計算、卒業論文作成など多くの局面で利用されている。また、インターネットの急速な普及により、ブラウザでの情報検索や電子メールによるコミュニケーションが一般化してきており、現代社会において必要不可欠なものとなっている。</p> <p>本授業は、コンピュータやインターネットを利用する上で必要な基礎的理論と技術について実習を通して習得し、学業において日常的なコンピュータ利用が主体的にできる力を身につけることを目的としている。</p>			
授業計画			
第1回：パーソナルコンピュータ（PC）の基本的な取り扱い			
第2回：学術活動のためのインターネット利用			
第3回：情報セキュリティとネチケット			
第4回：文書処理①（Wordの基本操作）			
第5回：文書処理②（書式の設定）			
第6回：文書処理③（表作成、図の挿入）			
第7回：文書処理④（長文レポート編集と文書校閲）			
第8回：表計算データ処理①（数式、関数の利用）			
第9回：表計算データ処理②（ヒストグラムの作成）			
第10回：表計算データ処理③（様々なグラフ利用）			
第11回：表計算データ処理④（データ抽出,クロス集計）			
第12回：表計算統計分析①（基本的な統計関数:代表値）			
第13回：表計算統計分析②（散布図と相関）			
第14回：表計算統計分析③（回帰曲線と予測）			
第15回：実データ（学術データ等含む）課題演習（実データ検討）			
テキスト			

「情報リテラシー 総合編 Windows 11・Office 2021対応」富士通エフ・オー・エム（株）
参考書・参考資料等 なし
学生に対する評価 提出課題等により総合的に評価する。